

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

♡ことばの力 ♡からだの力 ♡こころの力

園長室だより



城南学園幼稚園

園長 太田友子

平成29年1月17日

災害への備え 日頃の暮らしの中で

早くも1月の半ばを過ぎました。今年は暖冬のお正月でしたが、やはり厳しい寒さが到来しました。少しの積雪でさえ、日常の生活に大きな影響を及ぼします。幼稚園の送迎時には、どうか十分に気をつけていただきたく思います。

さて、阪神淡路大震災が生起して早くも22年が過ぎました。その後、東日本大震災、熊本の震災等が起こり、「防災」に対する意識が大きく変わりました。そんな中、幼稚園でも避難訓練は欠かせない教育活動となっています。

1月13日（金）は、子どもたちに予告せず、地震の発生を想定した避難訓練をしました。今年度すでに3回、消防署や警察と連携して実施しています。「命が一番」を合言葉にし、自分の身を守ることの意味や具体的な行動などについて、繰り返し指導しているところです。今回は、敢えて事前に知らせず、放送で指示しました。

「備えあれば憂いなし」、3歳児の子どもたちは慌てることなく、先生のもとに集まる子、速やかに机の下にもぐる子もいて、これまでの訓練の効果が見られました。全園児の避難に要した時間は、82秒でした。

「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない」をどんな状況でも実践できる力を日常の中で育てているところです。



「知的早産」の怖さって？

人間は「生理的な早産」をします。一人で生きていけない状態で生まれてくるのです。環境（大人のかかわりなど）の影響を大きく受けながら自立していきます。母体で10ヶ月育つことの重要性については誰もが認めることでしょうか。やむなく早産した場合、その後のフォローがとても大切になります。

一方、「知的早産」、いわゆる早期教育ですが、その弊害についてどれほど認識されているでしょうか。結論から言うと、「知的早産」の弊害は、大人になってから現れると言われます。学力は高いけれど、意志力、決断力に欠けた、いわゆる社会人として生き抜く力が育ちにくいと指摘されているのです。

さて、本園の教育方針「小学校につながる学びの基礎を培う幼児教育」についてですが、ややもすると「小学校につながる」早期教育を重視していると受け取られがちですが、そうではありません。小学校以降の学

びにつながる、幼児期にしか培えない学びの基礎となる経験を存分にさせることを大切にしているのです。幼児期は児童期ではありません。幼児期ならではのゆったりした生活の中で、「自分がしたいことを見つける」「夢中になる」「先生や友だちと過ごす」「粘り強くやり遂げる」そして、子ども自身が「そのことの楽しさや喜びに気づく」ことを重視しています。

子どもが自信をもって小学校へ進学することを最終目的にしている幼稚園なのです。

